

# 先輩たちの声

「子どもたちと学び続けています。」

令和5年に採用された先生たち。  
それぞれの学校で  
一生懸命がんばっています。  
そんな先輩たちの声をご紹介します。



生駒市立  
生駒台小学校  
教諭

中務 琴菜

「1年での変化」

4月から2年生の担任になり、やっと夢が叶い嬉しかった反面、本当に自分が1年間担任として頑張ることができるのか不安に思うこともありました。この1年、様々な問題に悩む日もありましたが、先輩の先生にアドバイスを頂き、前に進むことができました。

今では学校に行くと子どもたちの無邪気な笑顔や言葉、頑張っている先生方を見てエネルギーをもらっています。

これからも自分なりに成長しながら、楽しんで頑張りたいです。



奈良市立  
登美ヶ丘小学校  
教諭

佐野 圭亮

「子どもの成長を見ることができる特等席」

私は、5年間愛知県で教員をしていました。慣れた環境を離れることで、不安や戸惑いがありました。そんな時に私を支えてくれたのが学級の子供たちです。子どもたちと過ごす中で、奈良でもがんばろうと思いました。

小学校教員は一日のほとんどの時間を学級の子供たちと過ごします。日々の中で子供たちの成長を一番近くで感じることができ、毎日がとても楽しく、幸せな気持ちになります。

私にとって教員という仕事は、「子どもの成長を見ることができる特等席」です。これからも子どもたちと一緒に楽しく毎日を過ごしていきます。



下北山村立  
下北山小中学校  
教諭

石丸 元太

「教師になって気づいたこと」

「生徒の個性を大切にすること」、学校教育に携わっている人や目指している人の多くが心に抱く気持ちだと思います。実際私も、生徒一人一人の個性をどう引き出すか、どう伸ばすかを考え、その生徒の成長に繋げることにやりがいを感じています。

また日々の生活の中で、生徒たちも私たち教師をよく見ているということを感じます。生徒たちは自分を受け止めてくれる人を探しています。初めは生徒たちを受け止められるか不安でいっぱいでしたが、教師は、自分だけが持つ知識や経験、思いなど、全てを活かして生徒たちを受け止められる存在になれる仕事だと今では感じています。

香芝市立  
香芝西中学校  
教諭

栗山 有紀

「子どもたちと共に歩んだ1年」

私は以前金融機関で働いていましたが、どうしても夢が諦めきれず教員に転職しました。子どもたちと過ごす毎日に同じ日はなく、こちらが真摯に向き合えば、日に日にいろいろな顔を見せてくれるようになり、刺激的で、何より楽しいです。伝えたいことがあふれて、でも上手く伝えられず、歯痒い思いをすることもありますが、しかし、本当にふとした拍子に成長を感じる瞬間や、私の想像など軽く超えてくれるときがあり、とても嬉しくなります。教員になってしか得られない経験がたくさんあり、諦めずに夢を追いかけて良かったと感じる日々です。子どもたちにとって、近く親しくも、頼れる大人でありたいと思います。



奈良県立  
高等養護学校  
教諭

佐古 多加子

「コミュニケーションの大切さ」

新しい環境への期待と不安が入り交じる中、新学期がスタートしました。クラス担任として関係づくりのために積極的に話しかけているうちに、子どもたちが少しずつ自分の好きなことや悩みを話してくれるようになってきました。授業では、他の先生方と振り返りを密に行うことで、自分では気づけなかった視点や改善点についてアドバイスをいただくことができました。子どもたちとの信頼関係を築き、効果的な指導を行うためにも、積極的なコミュニケーションは欠かせないものと感じています。子どもたち一人一人にとって充実した学校生活を送ることができるよう、子どもたちや先生方とたくさんコミュニケーションを図っていきたいと思います。



奈良県立  
王寺工業高等学校  
教諭

長嶋 友紀

「生徒と向き合う」

目標であった高校教員になり、担任として生徒と向き合うことになりました。始めは自分が伝えたいことが生徒に響かず、生徒との信頼関係を築いていくことの難しさに悩んでいました。先輩教員から「悩んでいる時は子どもたちと話したらいいよ。生徒の気持ちが答えだから。」とアドバイスを受け、生徒一人一人が求めていることが違うことに気づいたことで、生徒に寄り添い、生徒の本心を理解する大切さを学びました。意識して向き合うことによって、日常生活で生徒の成長を感じることも増え、それが何よりも嬉しく、教員としてのやりがいも感じています。今後も生徒と真摯に向き合いながら、生徒と一緒に成長し続ける教員でありたいです。



田原本町立  
北小学校  
養護教諭

三谷 風夏

「『元気になったよ』、その一言で」

保健室には、怪我をして涙を流している子や、体調が悪くてつらそうな子、話を聞いてほしい子など、様々な子どもたちが来室します。元気いっぱいの姿ばかりを見られるわけではありませんが、子どもたちとの関わりが楽しく日々の励みになっています。その中でも、教室へと復帰した子どもから「元気になったよ」と報告を受けることが一番の幸せです。「元気な姿を見せて来てくれてありがとう」という思いとともに、養護教諭として何ができるのか自分の役割を見つめ直すきっかけにもなりました。目の前の子どもたちと向き合い試行錯誤する日々ですが、ともに成長できるよう学び続ける教員でありたいと思います。